

簡易更新で、良質な自給飼料を増産しよう！

1. 更新の目安

老朽化草地で、雑草や不良植生（ケンタッキーブルーグラス、レッドトップ、リードカナリーグラス等）が30%以上を占めると牧草の栄養価と生産性が劣り、草地更新の対象になります。これより少ない場合、土改材や堆厩肥の施用、マメ科牧草の追播を検討します。詳しくは弊社営業所もしくは現地の指導機関と御相談下さい。

表 採草地（兼用草地）の植生診断基準

基幹草種（または優良草種）の被度	70%以上	50～70%	50%未満
雑草被度			
10%未満	更新不要 ^{a)}	更新検討 ^{b)}	要更新
10～30%未満	更新検討 ^{b)} (雑草防除)	要更新 ^{c)} (雑草防除)	
30%以上	要更新 (雑草防除)		

a)：生産量が目標より少なかったり、牧草の栄養価が低く、施肥量を増加させても改善が望めない場合や、新しい草種を導入したい場合には更新する。マメ科の被度が少ない場合は簡易更新で導入する。

b)：施肥管理や利用法の改善により回復可能かどうか判断し、回復不可能の場合は更新する。更新は簡易更新でも可。

c)：簡易更新でも可。

雑草被度が10%以上の場合は更新前に雑草防除が必要。

日本草地協会「草地診断の手引き」(平成8年)より

2. 更新方法

手軽な簡易更新が普及しています。ポイントは以下の通り。

- ・ 土壌診断と炭カルの施用。
- ・ 不良植生は更新1～2週間前のラウンドアップ処理で退治する。
- ・ 播種適期は雑草が少ない8～9月中旬まで。
- ・ 播種量：2kg/10aが目安。
- ・ ロータリーの表層耕起か、専用の播種機（写真）で播種する。



3. 更新の効果

- ・ 専用の機械による簡易更新の作業性は23分/10a（従来の1/3）、経費も15.7万円/haとなっています。
- ・ この結果、翌年の乾物収量が6834kg/ha（135%増収）となり、この8年間の増収額が32万円/ha（乾物40円/kgで計算）になりました。
- ・ この経費は3年で償却できます（梨木、2005）。

表 作業工程の違い

作業工程	主な作業機械	完全更新	簡易更新
除草剤散布	スプレーヤ	1	1
堆肥・スラリー散布	マニユア・スラリースプレッダ	2	2
耕起	プラウ	3	
土壌改良材散布	ブロードキャスト	4	
砕土・整地	デスク・ロータリハロー	5	
鎮圧	ケンブリッジローラ	6	
施肥・播種	ブロードキャスト	7	
播種	作溝播種機		3
鎮圧	ケンブリッジローラ	8	
土壌改良材散布・施肥	ブロードキャスト		4

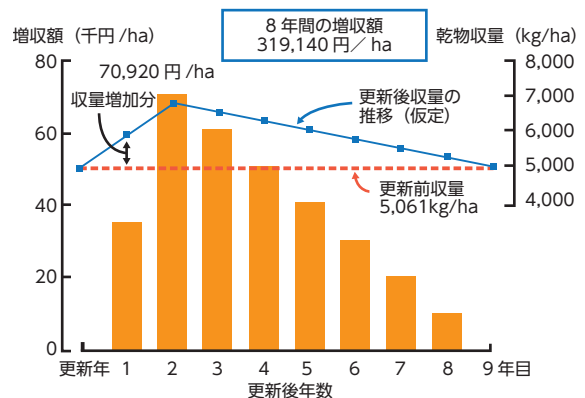


図 更新による収量増加による増収効果